

大阪府の取り組み

大阪府			
平成23年新登録結核患者数	989人	平成24年新登録結核患者数	774人(速報値)
(14保健所) 罹患率	22.0	(13保健所) 罹患率	18.9(速報値)

【題】 結核基準病床の減少及び偏在について

○結核病床の減少

大阪府では、平成25年3月に「大阪府保健医療計画」の改定を予定しており、記載項目のひとつとして結核基準病床数の見直しを行います。現計画からの推移は次のとおり(予定)。

現計画			次期計画(H25.3)	
基準病床数	既存病床数 (平成24年10月1日現在)	⇒	基準病床数	既存病床数 (平成19年10月1日現在)
814	577		514	577
過剰病床数：▲237			過剰病床数：63	

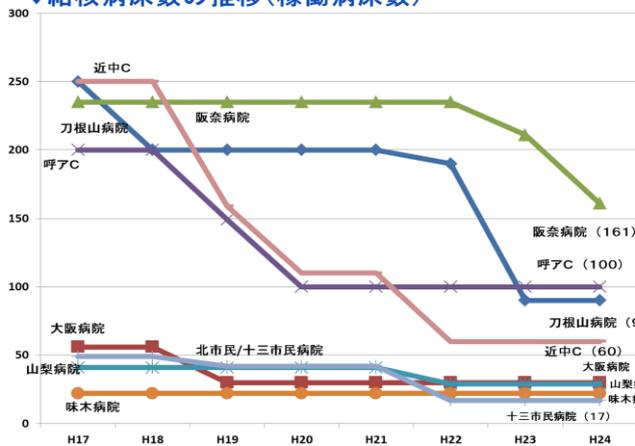
上記の表では、結核病床数が次期計画における基準病床数を超過するかのようと思われるが、複数の結核専門病院が病床数減少を予定しており、平成27年1月には、482床となり、32床不足となる予定。

結核医療のニーズに対応可能な病床数確保のため、国に対し、結核病床減少に歯止めがかかる対策を講じるよう、継続的に要望していく。

○結核病床の偏在化について

- ・府域の結核病床数は、結核患者の減少率以上に減少しており、また偏在化が顕著であり地域バランスを欠く状況となっている。
- ・大阪府南部の結核患者の収容について、府立呼吸器・アレルギー医療センター(南河内)及びNHO近畿中央胸部疾患センター(堺市)に依存している。また、府外の医療機関に入院する患者も多い。
- ・特に大阪市域では慢性的な不足状態がつづいていることから、十三市民病院の結核病床を25年度中に増床し結核医療提供体制の強化を図る。

◆結核病床数の推移(稼働病床数)



2次医療圏	結核病床を有する病院数	許可病床数	稼働病床数	モデル病床数	塗抹陽性(H23)	
					患者数	り患率
豊能地域	1	90	90	0	95	9.4
三島地域	0	0	0	6	48	6.4
北河内地域	2	209	191	0	112	9.5
大阪市地域	3	68	68	2	497	18.6
中河内地域	0	0	0	0	96	11.2
南河内地域	1	150	100	6	60	9.5
堺市地域	1	60	60	0	89	10.6
泉州地域	0	0	0	0	80	8.7
合計	8	577	509	14	1077	9.2

大阪府及び各市の取組

大阪市保健所			
平成23年新登録結核患者数	1,109人	平成24年新登録結核患者数	1,158人(速報値)
罹患率	41.5	罹患率	43.2(速報値)

【題】

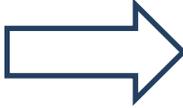
- ① 西成特区構想における結核対策の拡充
- ② リスクグループ等への結核健診及び健康教育の実施

【内容】

- ① 「西成特区構想における結核対策の拡充」

西成特区構想の実現に向け、西成区の結核事情の改善を図るため、あいらん地域を中心に結核対策を集中的に講じ、新規登録患者の半減を目指す。

【目標】

	平成21年		平成29年
西成区の新規登録患者数	290人		145人以下
(うち、あいらん地域)	(165人)		(80人以下)

※「第2次大阪市結核対策基本指針」の目標の前倒し(H32→H29)

【24年度補正予算内容】

- ・結核健診の拡充による早期発見の推進
- ・服薬支援(DOTS)の拡充
- ・結核を診断・治療できる体制の拡充
- ・実施体制の確保

- ② 「リスクグループ等への結核健診及び健康教育の実施」

平成23年度から日本語学校及び介護老人保健施設において、結核健診及び健康教育を実施。

【23年度実績】

《結核健診》

	対象施設数	実施数	実施率	実施者数	患者数	患者発見率
日本語学校	32	11(延べ17回)	34.4%	1,083人	4人	0.37%
老健施設	63	21(延べ29回)	33.3%	1,507人	1人	0.07%

《健康教育》

	対象施設数	実施数	実施率
日本語学校	32	6(延べ6回)	18.8%
老健施設	63	23(延べ24回)	36.5%

大阪府及び各市の取組

堺市保健所			
平成23年新登録結核患者数	205人	平成24年新登録結核患者数	236人(速報値)
罹患率	24.3	罹患率	28.0(速報値)

【題】

堺市の結核対策について

【内容】

平成23年3月に「堺市の結核対策の推進に向けた基本目標と具体的戦略について」を策定。

対象期間：平成23年度から平成32年度までの10か年

基本目標：平成32年(2020年)までに堺市の結核罹患率を「18以下」に低減させる

5つの具体的戦略と対策項目別目標

1. 適正な治療と患者管理

○治療失敗・脱落率 (目標1.0%)

○対面型DOTSの実施率(喀痰塗抹陽性患者) (目標80%)

等

2. 早期患者発見

○接触者健康診断実施率(直後～2か月後) (目標100%)

○定期健康診断実施報告書提出率(病院・学校・施設従事者) (目標100%)

○届出の徹底(診断日内の届出) (目標90%)

等

3. BCG接種

○BCG接種率(生後6か月まで) (目標100%)

4. 普及・啓発の推進

○結核精度管理研修会の開催

5. 情報の収集、調査、分析、評価

○結核対策評価検討会議の開催

等

(主な取り組み)

○結核院内感染対策ガイドラインの策定

結核患者の8割以上が医療機関への受診あるいは他疾患入院中に発見されていることや、患者の半数以上が70歳以上であることなどから、高齢者や合併症を有する既感染者がその中心になっており、専門医療機関以外であっても結核患者と遭遇する可能性があることから、医療機関向けに「堺市結核院内感染対策の手引き」を策定した(平成25年1月)。策定にあたっては、結核専門医療機関及び結核研究所等の専門家へ意見聴取を行い、その意見を反映した。

今後、診療所を含む市内医療機関へ配布し、活用を促すとともに、病院の院内感染対策担当者向け研修の開催等により更なる周知を図っていく予定。

○高齢者施設通所者健診のモデル実施

高齢福祉担当部局と連携を図り、デイサービス利用者を対象に平成24年度は協力施設2施設で実施。平成25年度以降も継続予定。

○結核地域医療連携ネットワークの構築とDOTSの強化

・平成18年度から地域DOTS支援事業をスタート。平成24年1月から全新登録患者へ対象拡大。

地域薬剤師会との連携強化により、薬局DOTSの充実を図るべく、研修会等を継続的に実施していく。

・結核病床減の動向に対応した、地域医療連携ネットワーク構築に向けた検討を今後進めていく。

○結核指定医療機関講習会及び結核精度管理研修会の開催

○診療所従事者の定期健康診断実施報告書提出率の向上(平成25年度以降は個別勸奨を実施予定)

大阪府及び各市の取組

		高槻市保健所	
平成23年新登録結核患者数	59人	平成24年新登録結核患者数	50人(速報値)
罹患率	16.6	罹患率	14.1(速報値)

【題】

低まん延化に向けた地域の医療機関との連携強化について

〔背景〕

高槻市では、近年、結核罹患率が順調に減少してきており、低まん延化が視野に入りつつある。

しかしながら、結核患者の高齢者層への偏在化が顕著となる一方で、若年者層からの発症も一定の割合で存在していることから、よりきめ細やかな事例の分析と対策が課題となっている。

また、診断の遅れについても改善を図る必要があることから、地域の医療機関における診断能力の向上及び意識啓発、最新の治療技術の普及に向けた行政としての取り組みが望まれる。今後も喀痰塗抹陽性患者の減少が想定され、結核診療のウエイトが専門病院から地域の医療機関へとシフトしていくことが見込まれることから、地域の医療機関との連携強化が必須である。

○新登録結核患者の年代別人数（割合 %）

	～39歳	40歳～69歳	70歳以上	計（人）
平成22年	9（12.5）	20（27.8）	43（59.7）	72
平成23年	9（15.3）	17（28.8）	33（55.9）	59
平成24年（速報値）	7（14.0）	17（34.0）	26（52.0）	50

○診断の遅れ（新登録結核患者のうち発病から診断まで3ヵ月以上要した人の割合 %）

	高槻市	大阪府平均	全国平均
平成23年	15.38	23.28	16.09

〔現状〕

①結核指定医療機関講習会の開催継続

- ・平成23年度から管内病院の参加についてより積極的に呼びかけを開始。
- ・平成24年度

テーマ 「結核の診断遅れの事例を振り返って～コホート検討会に参加する臨床医の立場から～」

講師：大阪医科大学附属病院 呼吸器内科 医長 池田 宗一郎先生

参加機関 病院 19カ所、診療所 22カ所、薬局 12店

参加職種 医師 19名、看護師 19名、薬剤師 10名、その他 4名

②医師間連携の強化

- ・感染症診査会での意見を診療医にフィードバック

〔今後の課題〕

①地域の医療機関との連携強化

地域の医療機関における診断能力の向上及び意識啓発を図る。

②DOTS事業の周知

服薬手帳の改正を機会に、管内の主要病院に対し啓発を行っていく予定。

大阪府及び各市の取組

東大阪市保健所			
平成23年新登録結核患者数	123 人	平成24年新登録結核患者数	108人(速報値)
罹患率	24.1	罹患率	21.3(速報値)

【題】

1. 潜在性結核感染症の増加 2. 処遇困難事例への対応について

【内容】

1. 潜在性結核感染症の増加

1) 潜在性結核感染症患者数の経過

	平成22年	平成23年	平成24年
新登録患者数	124	122	108
塗抹陽性患者数(再掲)	52	59	43
潜在性結核感染症患者数	16	22	44

<44名の内訳>

家族 18人 免疫抑制剤使用に伴う予防内服 4人
 接触者 21人 実習前の健診で陽性判明 1人

2) QFT検査の導入の経過

平成15年～ QFT2Gを接触者集団健診に導入(府立呼吸器アレルギー医療センターに依頼)
 平成19年 大阪府立公衆衛生研究所に依頼
 平成20年4月 東大阪市環境衛生検査センターで検査を実施することになったのを機会に集団以外の接触者健診にも導入
 平成23年7月～ QFTゴールド導入

3) QFT検査の対象

中学生以上は全員QFT実施。 上限は50代
 小学生以下はツ反を優先。ツ反が30mm以上であればQFTを実施。

4) 今後について

増加の要因について詳しい分析をおこなっていきたい。

2. 処遇困難例への対応

塗抹陽性にもかかわらず入院を拒否した2事例

事例① 64歳 女性 再々治療(平成23年11月より治療開始)

登録時: b II2 塗抹 2+ 培養+ 薬剤感受性: あり

家族構成: 夫の2人暮らし

入院できない理由: 仕事のため

DOTS: 毎日の訪問は拒否。服薬後電話で報告をもらい、月1回訪問にて空がらを確認した。

事例② 64歳 男性 再々治療 治療中に再排菌(平成23年11月から治療、4月に排菌あり)

登録時: b II2 塗抹 G3号 培養+ 薬剤感受性 あり

家族構成: 単身 8月に転入

入院できない理由: 飲酒、喫煙が自由にできない

DOTS: 土日を除き毎日保健師が交代訪問しているが、目の前での服薬は拒否。空がらを確認している。経済的な問題があり受診を中断したり、不在のことも多い。

8月からかかっているが、菌の陰性化に至っていない。

大阪府及び各市の取組

		豊中市保健所	
平成23年新登録結核患者数	88 人	平成24年新登録結核患者数	95人(速報値)
罹患率	22.5	罹患率	24.3(速報値)

【題】

中核市移行初年における取組み

【内容】

1. 24年に取組んだもの

○ディンジャー層及びハイリスク層に対する健診

平成24年パチンコ店3か所、介護保険事業所非常勤従事者への健診
パチンコ店44人、介護保険事業所従事者21人受診。要精検者なし。

○老人福祉センターでの接触者健診

平成24年12月実施。52人受診。うち9人要精検。順次精検勧奨中。

○関係機関への啓発

- ・福祉事務所（生活保護担当部局）全員を対象として結核に関する講話を実施。
3回開催、163人受講。
- ・地域包括支援センター市内8か所と保健所との連絡会議にて感染症Gの業務を紹介し、服薬支援などでの協力依頼。
- ・健康づくり推進員会校区代表者会（市内38小学校区の代表者 33人受講）
- ・ヘルパー事業所、高齢者サロンなど

2. 25年に取組む予定のもの

○市医師会月報への啓発文書封入

日常の診察における結核早期発見への協力、発生届の提出について。BCG接種勧奨について。

○1月新登録患者から全数アセスメントを6か月間実施。

現在塗抹陽性者とその他必要な人に服薬支援（DOTS）を実施しているが、平成27年までに全数DOTSを目標とする国通知をうけて試行するもの。

3. 人材のスキルアップにつなげるために

○保健師の患者の担当に関する工夫

保健師6人中4人が結核患者支援担当2年未満のため、いろいろな対象に対応できるよう、地区分担当ではなく、塗抹陽性・陰性・LTBI、様々な医療機関からの発生届などをみて担当を決定。

○コホート検討会に市関係部局の出席

年5回実施。市立豊中病院感染担当看護師、福祉事務所保健師、市民健診担当保健師の出席。

○研修会への参加と復命